

漁況海況予報事業[※]

阪本 俊雄・竹内 淳一
吉村 晃一・武田 保幸
渡辺勇二郎

調査船「わかやま」浜口英雄他6名

目 的

本県沿岸及び同沖合の海況と本県沿岸漁業の漁況をモニタリングして、海況と漁況に関する調査研究を行う。同時にこれらの情報を漁業関係者ならびに関係機関に提供して操業と漁業経営の合理化に資する。

方 法

昭和62年度漁況海況予報事業実施方針（水産庁）による。

結 果

1. 海況の概要 潮岬南における黒潮の中心部は以下のように、4～7月前半は70～100湊、7月

| 年 月 | 1987 | | | | | | | | | 1988 | | |
|--------|------------|------------|------------|-----|------------|------------|------------|------------|----|------------|----|------------|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 前半 | 70 (70) | 90 | 75 (70) | 100 | 55 | 45 | 80 | 40 | 60 | 30 | 40 | 40 |
| 後半 | 80 | 70 (70) | 90 | 65 | 45 (40) | 70 (70) | 50 (50) | 50 (50) | 55 | 40 (40) | 70 | 35 (40) |

(): わかやまの観測

後半～12月は40～80湊、1～3月は30～70湊で、その平均はそれぞれ80, 55, 40湊と徐々に離岸距離を縮めた。このように12月までは離岸距離は大きかったために黒潮の潮境は30～100湊にあって、且つ沿岸域への暖水波及はほとんどみられなかった。そして黒潮北側の中層顕著湧昇は沿岸域に係らず、沿岸の低温激化はまぬがれたが、黒潮接岸の高温化もなく沿岸域は極めて単調な海況で経過した。1月に入って30湊と接岸して1, 2月は沿岸域への暖水波及が頻繁にみられた。紀伊水道では水道西側から紀州沿岸を圧迫、熊野灘では陸岸に沿う暖水舌形成のパターンであった。3月は単調な海況となったが、下旬に強い暖水波及があって紀伊水道水温、塩分前線を水道北部にまで押し上げた。

2. 漁況の概要

内海マダイ 12～3月に漁著しく好転。1984年の異常冷水影響による補給水準の低下をようやく脱した。

外海マダイ 春期の漁場水温（瀬戸崎沖 100 m層）は16℃に達せず、依然低水準に留る。

内海マダコ 1987年は加太 106.1 tと1986年に次いで好漁であったがマダイの多獲されだした12～3月不漁。

タチウオ 紀伊水道50 m層が18℃以上を保った期間は7～11月で春仔群資源が復活する海洋環境になっていない。1987年は約4,500 tで1986年の約6,000 tより約1,500 t減。この減少は、中・小タチウオによるもので、黒潮離岸で発生量の少なかったことを示している。

※ 漁況海況予報事業費による。本事業報告は「昭和62年度漁況海況予報事業結果報告書」として別途報告。

シラス 春漁は黒潮離岸で各地とも減少。暖水波及が4月下旬に起り、盛漁期は1ヶ月遅れて5月。1988年1, 2月は水道西側からの黒潮系水の沿岸圧迫で水道外域好漁。

サワラ 1986年のサゴシ資源量水準の低かったことと、1987年の温暖化海況、1988年の上記黒潮系水影響で外域不漁。1987年4, 5月の入り込みサワラは水道北部で好漁。

イサキ 1986, '87年の漁獲量は低下した。

ヨコワ 来遊はほとんどみられなかった。

ビンナガ(トンボ) 黒潮離岸で来遊はみられなかった。

カツオ 黒潮離岸により、19℃~21℃の好適水温の沿岸域形成少なく、1986年の約1/3と不漁に終る。6, 7月には熊野灘黒潮逆流西向南下流が強勢となりシバ漬漁好調。

マアジ 1986年発生級資源による漁獲持続。1986年並の比較的高い漁獲水準。

マルアジ 1985, '86年よりも減少するが、なお高い水準。水道内での釣は不調。資源水準はかなり低下しているものと思われる。

マサバ 黒潮離岸で沿岸域に潮境漁場が形成されず2そうまきでは1986年の1/2以下に激減。水道内の釣では並漁。1988年2月、熊野灘で30~45cmのマサバ好漁。暖水舌形成による。

ウルメイワシ 暖水波及なく1986年の1/3に激減。棒受網も減少。

マイワシ 1そうまきで当才群増加。1986年の約2倍。

スルメイカ 黒潮離岸が大きく、中層顕著湧昇と紀伊水道渦流の形成なく前年並の不漁。

ソーダカッオ 1987年は熊野灘への暖水舌形成なく本種の来遊は皆無に近かった。

サンマ 本年度は勝浦325tと黒潮離岸で近年の低水準。

ブリ ブリの主漁獲は2月2日の日本海低気圧による宇久井の6,000余本のみで、ヒラマサ、メジロの減少続く。